

乳幼児健康診査への歯科医参加の実態

小林 臻 東京大学母子保健学科

：研究目的：

乳幼児健康診査は、乳幼児の心身の発達のチェックや養育者に対する保健教育、さらには乳幼児の発育、疾病発生の状況、生活環境などの健康情報を収集するためにきわめて重要であり、全国で一律に実施されることが望ましい。しかしながら乳幼児健康診査のうち、現在国から予算措置がとられているのは3歳児健診、乳児健診の医療機関委託2回分、1歳半健診であるが、時期を指定してその実施を法的に定めているのは3歳児健診だけである。

そのため乳幼児健診の実施内容、質はもちろんのこと実施回数も地域の実状によってさまざまであり全国的には統一されていないのが現状である。

今回は、乳幼児歯科保健の全国的なレベルアップの一助とするために、現在実施されている乳幼児健診の実施状況と、歯科医の健診への参加状況を地域別に把握して検討することとした。

：対象と方法：

全国47都道府県、20政令市、10指定都市、23特別区の保健所、総計857所(昭和59年現在)にアンケート調査用紙を郵送し、回収した。

アンケートは、0～5歳までを年月齢によって区切り、各年月齢ごとに集団健診の実施状況のほかに集団健診への歯科医の参加の有無などの実態について、記載を依頼した。分析には、上記の695保健所(回収分)が管轄する2560市町村の集団健診の状況についての資料も使用した。

ただし、政令市等の保健所は市や区に属しており都道府県とは管理システムが異なるのでこれは別に集計した。調査期間は昭和59年10月～12月である。

：結果：

表2に全国都道府県保健所および市町村における集団健診の実施状況を、表3に政令市等におけるそれを示した。

表1 調査対象

	配布	回収(率)
都道府県保健所	651	535(82.2)
政令市等保健所	206	160(77.7)
計	857	695(81.1)

表2 全国保健所及び市町村の実施状況

	集団健診			
	実施保健所		実施市町村	
	実数	率	実数	率
1か月	79	14.8	369	14.4
3か月	177	33.2	1164	45.6
6か月	72	13.5	612	23.9
9か月	44	8.2	536	21.0
12か月	30	5.6	369	14.1
1歳前半	61	11.4	209	8.1
1歳6月	62	11.6	2406	94.2
2歳	59	11.0	327	12.8
3歳	444	83.1	1112	43.5
4歳	37	6.9	75	2.9
5歳	38	7.1	59	2.3

表3 政令市等の保健所の実施状況

	集団健診	
	実施	率
3か月	144	90.6
6か月	20	12.5
9か月	31	19.5
12か月	8	5.0
1歳6月	140	88.1
3歳	152	95.6

都道府県保健所や市町村でよく実施されている集団健診は、3か月児、1歳半児、3歳児の年月齢においてであった。とくに保健所における3歳児健診市町村における1歳半児健診では高い実施率で、それぞれ83.1%、94.2%となっていた。その他、4歳児、5歳児をとくに指定して集団健診を実施している保健所や市町村はきわめて少なく、わずかに1%前後にとどまっていた(表2)。

一方、政令市等の保健所においても、3か月、1歳半、3歳の年月齢では集団健診がよく実施されていて、いずれも90%前後の高い実施率となっていた(表3)。

つぎに、全国をとおしての集団健診への歯科医の参加状況を都道府県保健所、市町村別に乳児期、1歳半、3歳の3つの年月齢について示したのが表4である。

集団健診への歯科医の参加状況をみると、対象年月齢、健診実施主体によって異なっていた。すなわち、乳児期では実施されているのは12か月のみであるが、保健所、市町村ともわずかに2%台にとどまっていた。1歳半では市町村の方が、3歳では保健所の方が歯科医の参加率が高くなっていて、それぞれ78.8%、76.5%の値を示していた。

また、1歳半においては保健所ではほとんど実施されておらず、1歳半は市町村というやりかたが定着してきているようである(表4)。

全国をとおしてみたとき、歯科医の参加率の高かった市町村主体の1歳半健診と都道府県保健所主体の3歳児健診について、各都道府県別に歯科医の参加した集団健診の実施状況をみたのが表5である。

市町村主体の1歳半集団健診への歯科医の参加状況をみると、秋田、栃木、千葉、大阪、鳥取、山口、宮崎、沖縄が100%の成績を示し歯科の保健活動がよくなされていることを、示唆している。

その他は、80%から90%を越す参加率で歯科医の参加がみとめられるが、参加率の低いところとしては北海道(58.5%)、岩手(70.8%)、埼玉(69.0%)、静岡(71.6%)、岐阜(64.9%)、三重(50.0%)、高知(42.9%)などがみとめられた。

一方、保健所主体の3歳児集団健診への歯科医の参加の状況を見てみると、100%の参加率を示した

表4 歯科医の参加した集団健診の実施

	実施主体	実施数	歯科医参加率
乳児期 (12月)	保健所	13	2.4%
	市町村	69	2.7
1歳半	保健所	15	2.8
	市町村	2018	78.8
3歳	保健所	409	76.5
	市町村	1042	40.7

歯科医参加率=実施数/回収保健所(535)
または回収市町村(2560)

のは、東京、京都、大阪、三重、和歌山、鳥取、徳島、香川、山口、佐賀の各県で、東京より以西の地域にすべてみとめられた。また、歯科医の参加率の低い地域としては、宮城(37.5%)、岐阜(11%)、滋賀(37.3%)、広島(30.8%)、沖縄(40.0%)などがみとめられ、いずれも50%を下まわる低い参加率であった。なお、全体としての歯科医の参加率は、表4に示すとおり1歳半健診では78.8%、3歳児健診では、76.5%となっていた。

：考察：

現在、実施されている公的な乳幼児健診には、集団健診と委託健診とがある。今回は、集団健診をとりあげた。

乳児期の健診は全体的にみると、市町村主体で実施されている場合が多く、とくに3~4月児を対象とした健診が最も多く行なわれていることがわかる。1歳半児健診は、事業開始後8年を経過したが、94%の市町村が実施しており、保健所が補っている地域を含むと、かなりの地域で実施されているといえよう。1歳半児健診が導入される以前には、1歳児健診や2歳児を対象にした健診が実施されていた地域が多かったが、現在では実施している地域は極めてすくない。

3歳児健診のうち市町村主体で実施されている割合はかなりみられる。市町村主体の3歳児健診は町村部にその割合が多く出生数の少ない地域ほどこの傾向が強いようである。

表5 集団健診への歯科医の参加率(都道府県別)

	1歳半	3歳		1歳半	3歳
北海道	58.5%	86.0%	大阪	100.0%	100.0%
青森	95.8	66.7	兵庫	97.8	88.9
岩手	70.8	90.9	奈良	92.9	50.0
宮城	90.7	37.5	和歌山	71.9	50.0
秋田	100.0	75.0	鳥取	100.0	100.0
山形	95.5	88.9	島根	90.7	75.0
福島	92.8	94.1	岡山	97.9	83.3
新潟	95.9	79.0	広島	82.3	30.8
茨城	92.8	50.0	山口	100.0	100.0
栃木	100.0	90.9	徳島	97.0	100.0
群馬	97.1	91.7	香川	82.1	100.0
埼玉	69.0	64.7	愛媛	82.0	90.9
千葉	100.0	71.4	高知	42.9	87.5
神奈川	96.2	90.0	福岡	87.9	76.5
山梨	95.9	33.3	佐賀	87.8	100.0
長野	85.9	69.2	長崎	82.5	81.8
静岡	71.6	93.3	熊本	88.6	83.3
東京	79.3	100.0	大分	92.7	80.0
富山	97.3	80.0	宮崎	100.0	80.0
石川	79.2	85.7	鹿児島	92.8	86.6
福井	78.8	57.1	沖縄	100.0	40.0
岐阜	64.9	11.1			
愛知	84.1	81.8			
三重	50.0	100.0			
滋賀	84.1	37.3			
京都	80.0	100.0			

- 1歳半健診(市町村主体)
- 3歳児健診(保健所主体)
- 歯科医参加率=歯科医参加のもとで集団健診を行なう保健所または市町村の数/回収された保健所または市町村の数

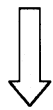
また、1歳半及び3歳児の集団健診において歯科医の参加は高く、う歯予防の向上に努めていることがわかるが、総ての地域に歯科医の参加があるわけではなく、地域による格差がみとめられる。

今後、この格差の解消に努めるとともに、予防に重点をおいて、適切な時期にきめこまかい保健指導や健診が実施出来るように検討がくわえられねばならない。

：まとめ：

保健所および市町村における乳幼児健診の実施状況を全国規模で調査して、結果を示した。あわせて

健診への歯科医の参加状況もしらべ、都道府県別に報告した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



:研究目的:

乳幼児健康診査は、乳幼児の心身の発達のチェックや養育者に対する保健教育、さらには乳幼児の発育、疾病発生の状況、生活環境などの健康情報を収集するためにきわめて重要であり、全国で一律に実施されることが望ましい。しかしながら乳幼児健康診査のうち、現在国から予算措置がとられているのは3歳児健診・乳児健診の医療機関委託2回分、1歳半健診であるが、時期を指定してその実施を法的に定めているのは3歳児健診だけである。

そのため乳幼児健診の実施内容、質はもちろんのこと実施回数も地域の実状によってさまざまであり全国的には統一されていないのが現状である。

今回は、乳幼児歯科保健の全国的なレベルアップの一助とするために、現在実施されている乳幼児健診の実施状況と、歯科医の健診への参加状況を地域別に把握して検討することとした。